

『主に信頼して』おはようございます。日曜の朝の第二礼拝によろこそ。聖書の一節一節を学んでいます。今日はテモテへの手紙第一、6章、御言葉箇所は、17節から19節までです。笑ってしまってすみません。でも、何が可笑しいか、その場にはないと分からない事なんです。始める前に皆さんにお伝えするのをとても嬉しく思います。我々の新サイト、”jdfarag.org”が完成しました。作動しています。ところで、そこには議論ができる場所があります。フォーラムです、オープンフォーラムです。ご参加いただくためには、メールアドレスを入力しての登録・購読が必要です。これが、双方向的なサイトという意味です。まだ、見たことがない人は、チェックしてみたいかでしょうか。リンクのURLは、動画の下にある説明欄にあります。では、始めましょう。テモテへの手紙第一、6章、17節からです。先週は16節まで終えました。19節までを見ていきます。今日はまだこの章は終わりません。だからこの書もまだ終わりません。理由はすぐにはわかりません。ここにお越しの方で、可能な方はお立ち下さい。私が読みますので、付いて来て下さい。無理な方は、座ったままで結構です。オンラインで参加の方も、付いてきて下さい。使徒パウロは、若い牧師テモテに手紙を書いています。17節で、こう言います。

テモテへの手紙第一 6章

17 今の世で富んでいる人たちに命じなさい。高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて、楽しませてくださる神に望みを置き、
18 善を行い、立派な行いに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、
19 来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るよう命じなさい。

それが生きるということです。共に祈りましょう。主よ、ありがとうございます。主よ、あなただけがお出来になるように、私たちの心を落ち着かせてください。聖霊によって、私たちが集中し、あなたに専心できるようにさせてください。そうすれば、私たちは、あなたが御言葉を通して私たちの人生に語りかけて下さるのを、聞くことができますから。主よ、感謝します。イエスの御名によって、アーメン、アーメン。着席してください。ありがとうございます。私が、今日の学びに選んだタイトルはこれです。すごいオリジナリティー！『主に信頼して』すごくありきたりですよ。典型的なキリスト教の決まり文句：主に信頼して！それが私の選んだタイトルです。皆さん気に入って下さるといいですが。さて、私がそうしたのは、私たちには問題があるからです。問題と言うのは、これをただ決まり文句と見て、そのために簡単に片づけてしまうことから生じる意図せぬ結果です。「ああ、主に信頼する… はい、はい。じゃあ次！」みたいに。問題は、そのように見ることは、私たちのクリスチャン生活に深刻な影響を与える可能性があることです。このような理由から、私は、私たちがどうやって、どのようにして、他の何にでもなく、また、他の誰にでもなく、実際、主に信頼をおくことができるのかについてお話ししたいと思います。これは、”ハウツー（やり方）の教え”の一つです。これもまた、殆ど決まり文句のようなタイトルであり、言い方でもあります。でもこれが、聖霊による神の御言葉「方法」です。ある人が言ったように、聖霊の「方法」で、聖なる言葉の「中身」を行なうのです。わかってもらえたらいいのですが。これについては、後でもう少し詳しく説明します。さて、先週話したのですが、私は今日の話の準備としてまたこの話をしなければなりません。私たちは命令に取り組みますから。一見すると、ある事が命令だと言うと、すぐに、こんな反応をします。「あら、まあ。命令？」そう「また命令？」はい、そうです。命令なんです。「それは良くないな。」いや、いいんですよ。「なぜ良いのですか？」なぜなら、主の命令は重荷ではないからです。あなたが、命令とは何かを理解すれば、あなたは神が、その命令と共に、神があなたに命じておられる事をあなたが行なうために、聖霊の力を与えてくださることを理解します。だから、それは良いことなのです。悲しい事に、私

私たちは命令という言葉を知ると、あまりにも性急に、直ぐに、構えてしまいます。これは命令だ。私は、律法の下にはいない。そう慌てないで。これは、そういう問題ではありません。これは命令です。実際には、パウロがテモテに書いた3つの命令のうちの、2番目と3番目のものです。最初の命令は、それ以前の12節から14節にありました。これは命令ですが、その内容は、信仰の戦いを立派に戦い、永遠のいのちを獲得する。彼は、永遠のいのちを獲得することを言いますが、それは今日また、私たちの前にある御言葉にある、まことの命です。第2の命令と第3の命令は、17節と18節にあります。それは両方とも、金持ちで、この世の物で富んでいると見なされる人々に関するものです。どうやら、テモテが牧師をしていたエペソの教会には、裕福な人たちがいたようです。そして、パウロはテモテに、彼らの富について命令するように指示しています。文章から察するに、彼らは、富のためにうぬぼれ、その結果として、傲慢になっていたようです。そこでパウロは、聖霊によってテモテに手紙を書き、彼らに、傲慢にならないように命じなければならないと言っています。ということで、この2つの命令です。このような言い方をすいませんが、17節では、基本的にパウロは次のように言っています。「富に希望を託してはならない。」命令を理解する事がなぜ重要なのかを私が強調したい理由は、命令は、決して神が、「汝、するべからず。わたしは神であり、わたしがあなたにそう命じたのだから」と言っているように、理解されるべきでないからです。そうではありません！私はある人がこう言ったのが気に入っています。それは十戒（テン・コマンドメンツ）ではなく、愛に満ちた優しい天の父からの、優しい戒め（テンドー・コマンドメンツ）です。天の父はこう仰います。「それをしてはいけません。なぜなら、わたしはあなたをととても愛しているから、そうすることの結果から、あなたを救いたいのだ。」例として、十戒のうちの1つを取り上げましょう。妬みの話をしましょう。「すべてあなたの隣人のものを欲してはならない。」なぜ？「なぜなら、わたしは神であり、その神であるわたしが言うからだ！」いや、そうではありません。これが理由です。もしあなたが、貪欲、妬み、嫉妬に囚われるなら、それはあなたをメタメタにします。それはあなたを内側から食い尽くし、あなたを滅ぼします。わたしはあなたをととても愛している。だから、そんなことになって欲しくない。ヘブル人への手紙の著者は言います。「それを根付かせるな」なぜなら、それはいずれ発芽して、芽が出てくるからです。神は、私たちをととても愛しておられるので、私たちが、神の愛に満ちた、優しい命令に従わない時に、私たちが不必要にその結果に苦しむことを望まれません。それを今日の箇所を重ね合わせてみましょう。使徒パウロはテモテを愛しています。使徒パウロは、エペソのこの教会を愛しています。とても愛しているので、彼は、彼らの富について注意し、警告したいと思っているほどです。また、彼らの富に伴ってくるものについても。その主なものは傲慢さと高慢です。それは、彼らをメタメタにします。そうしないように命じなさい。その理由は次のものです。彼は言います。「今の世で富んでいる人たちに命じなさい。高慢にならず、富に望みを置かないように。」つまり、富があると、それに頼りがちになるのが真実ではありませんか？ それがあるから、先ずそれに信頼してしまう。だから、それに望みを置かないように、彼らに命じなさい。何故？なぜなら、それはとても不安定だから。今日はここにあって、明日にはなくなる。そして、彼は言います。神に望みを置く者は、常に必要なものはすべて豊かに与えられる。つまり、主に望みを置くことで、期待を裏切られることは決してなく、失望することは決してありません。一方、富の場合は、いつもそうなります。何も確かなものはありません。このCOVID-19の危機は興味深いもので、事実上、それは単独で、人間が信頼を置くもの全てを破壊してしまいました。私はもう一步踏みこんで言います。礼拝までも。スポーツの話しましょう。やめておこうよ、と言っている人もいますが、いいえ、話します。スポーツについて。おもしろくないですか？スポーツって、神様みたいなものですよ。そして、それが奪われてしまった。少なくとも、今までとは違いますね。その富、その資産はどうでしょう...株式市場が”ダウNTOWN”に行った時は、どうでしたか？暫くの間、ぐんと暴落した時？ どんだけ怖かった？ まあ、あなたが投資していればの話ですが。。。あなたはそこに希望を託しているのですか？ それを信用しているのですか？ 例外なく確実に、あなたは期待を裏切られます。それに望みを置いてはいけません。私の大好きな箴言の1つですが、実際は、

箴言全てが好きなのですが・・・23章5節。自分の富に希望を置く人について、この目に浮かぶような描写を聞いてください。

箴言 23章

5あなたがこれに目を留めると、それはもうないではないか。富は必ず翼をつけて、鷲のように天へ飛んで行く。

バイバイ....それを信頼してはいけません。横目でちらっと見るのもいけません。そして、その理由がここにあります。なぜなら...毎月、起こる事です。あなたの給与の成り行きです。どこに行ったの？羽が生えて飛んでいったよ。バイバイ、またね。富の場合は、そうなってしまいます。もう一つだけ。その後、二つ目にゆきます。一緒に考えてほしいんです。十戒の最初の五つの戒めは、私たちの主なる神を、心と思いと精神と力を尽くして愛することについてです。最初の二つの戒め、「あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。」「あなたは自分のために偶像を造ってはならない。」「それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。」それらの偽の神々に。繰り返しますが、それは、神がこう言っているからではありません。「わたしは神だ!」「わたしがそう言ったのだから、ダメだ!」いいえ、神はこのように言っているのです。「それらの神々は、全く神などではない。」「それらはあなたを愛してはいない。」「それらはあなたのために死ななかつた。」「死んだのは、わたしだ。」「それらは、あなたを助けてはくれない。」「わたしは助ける!」旧約聖書について考えます。旧約聖書全体で、絶えず耳にするのは、主は言われる。「イスラエルよ、聞け。 ”わたしは” あなたの神、主である。」モーゼが やっとシナイ山から降りてくると、イスラエルの民は、モーゼの兄アロンに圧力をかけてます。「アロン、あなたの弟は帰ってこない。」「随分と前に行ったっきりだ。帰ってこないし、私たちには神が必要だ。」彼らはアロンに圧力をかけ、彼らのために、神を作るように強制しました。それで、彼はどんな神を作るのでしょうか？ ああ、数あるエジプトの神々のうちの一つ。黄金の子牛。エジプトでは 三千以上の神々が崇拝されていました。それで彼らは、エジプトから出る時に得た金を取り出し、アロンは、それで黄金の子牛を作ります。かなり生々しいので、詳細には触れませんが、彼らは皆、崇拝し、踊り、賛美していた。そして、アロンは大胆にも イスラエル人の前に立って宣言しました。「見よ、これがエジプトからあなたを連れ出した神だ。」うわあああああ。。。アロン、ダメだ！ 弟のモーが帰って来た！ 彼は降りて来ますね？ モーセは山から降りて来て、石板を持っています。そして、恐ろしいことに！ モーセは石板を壊します。彼らが戒めを破ったからです！第一戒から！ まてよ、これは第一番目の戒めだ！ やってくれたなー、自分たちのためにこの偶像を作ってしまったのか！ それを神として崇拝して、別の神を持っているのか。その物語は非常に興味深いものです。と言うのも、モーセは彼の兄と、この対話をします。「何を考えてるんです？」あなたが戻ってくるかどうか、分からなかった。あなたはもう居なくなってしまったのかと思った。もう帰ってくるはずないと。そして、人々は「我々には神が必要だ」って...我々は神を買い求めているから。もう神がないのだから。彼らは本当に圧力をかけてきて、脅迫までしてきた。だから、私は屈して、同意して、この金で、なかなか面白いですよ。ぜひ一度、この記述を読んでみてください。彼は基本的にはこう言っています。これは、大まかに言い換えています。アロンは言います。「あのね、ただ金を火に入れたら、プーフッ！黄金の子牛が飛び出てきた。」うわー、その手には乗らないよ、アロン！ こんな風に言われるのを聞いたことがあります。罪は、それが禁じられているから悪いのではない。「汝、するべからず。わたしは禁じている。」だから悪いのではありません。違います。罪は、悪いから禁じられているのです。もう一度言わせてください。罪は、禁じられているから悪いのではない。罪は悪いことだから禁じられているのです。地上の親として、私たちがどういうものか、知ってますよね？ 私はいつも... 私の考え方ですが、罪を持つ地上の父親として、私はどれだけ私の子供たちを愛しているか。私は子供たちを愛しています！ そして、妻を愛しています！ 私は、地上の墮落した父として、また、罪を持つ地上の夫として、すべての点で、不完全で...私は、どれほど彼らを愛していることでしょうか！ 私の天の父は、なおさら、どれほどもっと私を愛してくださっているのでしょうか？ 私は放蕩息子や、わ

がママ娘のことを考えています。ただ、その心の痛みと言ったら... その放蕩息子や わがママ娘は、決して知ることのないものです。母親と父親は、ただ打ちのめされている。なぜなら、彼らは子どもたちをとても愛しているからです。でも、ここが重要です。愛に満ちた天の父は、あなたが愛し得る以上に 彼らのことを愛しています。考えてみてください。私の理解を遙かに超えています。敵に、神の命令をまるでそれが重荷であるかのように、歪め、曲解させてはなりません。（良い言葉が見つかりませんが…）イエスは言われました。

「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」（マタイ 11:30）

神は、命じられたことを、 私たちができるようにすることなしに、何かを命じることは決してありません。なぜ？ 神は、あなたを愛しているから。私を愛しているからです。彼は私たちのことを、とても愛してくれています。神は絶対に無理強いはしません。私たちにご自分の意思を押し付けることは、絶対にしません。選ぶ自由を与えてくれています。私はただ想像します。愛に満ちた天の父は、ただ私を守りたいのです。不必要な痛みや悲しみ、嘆きや苦しみから。必ずついてくる結果から。エペソの人々の話をしましょう。彼らは、明らかに重荷を負ってました。彼はこう言っているのではありません。「彼らに、傲慢にならないように、また、良いことをするように命じなさい。」彼は、彼らために言っているのです。なぜなら、彼らがそんなに高慢だと… 高慢に伴うものが何か、知っていますか？ 滅び、破壊です。

「高ぶりは破滅に先立ち、心の高慢は倒れに先立つ。」（箴言 16:18）

パウロは聖霊によって、愛に満ちた天の父のために、エペソの金持ちたちに言っています。私は、あなたがたを苦痛から守りたいのです。私たちが高慢であれば、必ず滅びが来ますから。もう一つあります。こちらの方が重要かもしれません。

神は高ぶる者を遠くから見抜かれる、（詩篇 138:6）

と私たちは教えられています。しかし、謙虚な者には恵みを与えてくださいます。それを、一緒にイメージしてください。これは、主が何年もかけて 私に教えてくださったものです。神は謙虚です。考えてみてください。私たちは謙虚な時ほど、キリストに似ている時はありません。そして、私たちは高慢な時ほど サタンのような時はありません。

「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」（1ペテロ 5:5、ヤコブ 4:6）

言い換えれば、ちょっと想像して下さい。この愛に満ちた謙虚で、優しい天の御父が、「わたしから離れる！」と言うのを。「わたしはあなたが高慢になり切っていたら、あなたと一緒にはいられない。」福音書の中の救い主について いつも印象の強いことの一つは、小さな子供たちが、イエスに惹かれて引き寄せられたということです。あまりにもそうだったので、ある時、子供たちが大勢、イエスに向かって走って来て、弟子たちはこう言いました。「おい、お前ら何してるんだ？あっちへ行け！」高速道路でナイフでお手玉遊びしてろ。出て行け、この方は救世主だ。イエスは弟子を叱責します。そんなことをしてはいけない。子供たちが来るのを、止めてはいけない。「天の御国は、このような者たちのものなのです。」皆さんは自問したことはありますか？ なぜ子供たちは、イエスに惹かれたのでしょうか？ 彼がとても、親しみやすかったからだと思います。なぜ彼は、そんなに親しみやすかったのでしょうか？ とても謙虚だったからです。私のところには、子供たちは走って来ないのです。逃げて行くんです。私を怖がります。しかし、イエスには何か、とても魅力的なところが あったに違いありません。全然怖さがなくて、すごく親しみやすかったから、子供たちが彼に群がっていきました。それは、リトマテストだと思います。子どもたちはイエスのそばにいたかったのです。イエスはとても柔和だったから。柔和さを、弱さと同義にははいけません。柔和さとは、コントロールされた強さです。これは完全に神であり、完全に人である イエス・キリストなる 神の子です。全知、全能でありながら、柔和で謙虚です。私たちが『箴言』を学んでいた時、その学びに 何度も出てきた共通のテーマは、謙虚さには知恵が伴うということでした。そして、知恵は情報を適用することです。知識は、ただの情報です。しかし、知恵はその情報の適用です。では、どうすればその知恵が得られるのでしょうか？ 謙虚

さです。それは、両方向から言える事です。ひっくり返してみましよう。知恵が謙虚さを通して来るのならば、高慢さが、愚かさを通して来ると言うのが 理にかなっていませんか？ 両方から言えることです。語順を間違えましたね。疲れる一週間だったんです、... 愚かさは、高慢さに... とにかく意味はお分かりですね。謙虚さは知恵の始まりです。で、それは何ですか？ ああ、それは主を恐れることです。それが知恵の始まりです。主を恐れることは、悪を憎むことです。愛に満ちた天の父は、ご自分の民が、彼らの愚かさ、高慢さ、傲慢さ、自惚れから 不必要に生じる結果から守られるのを望んでおられます。自立。これは、また別の機会の主題です。18 節と 19 節にあるこの第二の命令は「善を行い、惜しみなく施す」それは命令です。17 節で、パウロはテモテに、「何」と「なぜ」の 両方を説明しています。18 節と 19 節で彼は、その「方法」について説明します、具体的には、私たちが主に信頼と望みを置き、（それから私が大好きなのはここです）まことのいのちを得ることができるのは どの様にしてなのか。この表現を知っていますか？ 「生きるってそういう事！」それが本当に生きるということです！「まことのいのち」とは何でしょう？ それは、この世の富ではなく、いのちです。しかし、ここにはまだ、私たちが話し合っ 解決せねばならない問題があります。何が問題なのか？ これが問題です。持っているものが多ければ多いほど、私たちは、持っているものに信頼してしまいます。そうですよね？ そして、持っているものが多ければ多いほど、私たちの持っている物が私たちをより強く支配します。ですよね？ ほら、問題は、あなたが何を持っているかではなく、何があなたを持っているかです。大事なものは、車庫の中にある物ではありません。いい車ですね。大事なものは、あなたの心の中にあるものです。あなたが何を所有しているかではなく、何があなたを所有しているかです。パウロがここで言っているのは、そういうことです。富を持っている人は、それらの富を信頼します。そして彼らがそうする時、神に信頼することが 犠牲になるのです。そして、もっと悪くなります。そのまま聞いてください。これは思ったよりも大きな問題です。持っているものが多ければ多いほど、持っているものを捧げることが難しくなります。このことは、統計で証明されています。私は、牧師としては、そこに注意を引きたくありません。自分に都合よい事を言ってるように聞こえますから。一番裕福な人たちが、最も少なく与えるんです。私は誰かのことを見ながら そう言っているではありません。ところで、念のために言っておきますが 私は誰がいくら捧げるかは、見ません。念のため、言っておきます。今、ホッとした人もいますね。私は知りたくありません。ヤコブが言うように、私は皆さんを区別して見ないからです。教会に多く献金する人がやって来たら、ほーっ！ 兄弟、コーヒーをお持ちしましょうか？ この特別席に座ってください。あなたはとても重要な人ですから。今のはまずかったですか？ 本当に酷かったです。だから、私はそうしないんです。または逆に、献金しない人が入ってくると…ロビーにいてください。ああ、もっといい場所がある。アガペーボックス（献金箱）のそばに座ったらいい。要点はわかったと思います。誇張表現しすぎでも、それには理由があるんです。でも本当なんですよ。最も少なく持つ者は最も多くを捧げ、最も多く持つ者は、最も少なく捧げます。なぜ、そうなのか、私の信じる理由を知りたいですか？ それは、多くのものを持っている人は、それを失うことを恐れているからです。だから、彼らはそれにしがみついて、しみつたれたケチになります。私たちは木曜日の夜の伝道者の書の学びで、これについて学びましたが、何が面白いかと言うと、あと少しで終わりですね。ちなみに、御心であれば、今週の木曜日に、第 12 章を終えます。「縮まり屋」(miser)という言葉を知っていますか？今の時代にはあまり使わない言葉です。「縮まり屋 (miser)」の意味は、本当につましく暮らす、ケチな人のことです。まあ、要するに、「けちん坊」と呼べばいい。言っちゃいました。“miser (縮まり屋)”という言葉が、”miserable (惨め)”という語の語源だと知っていますか？そうなんです。マイゼラブル、マイザー、ミゼラブル。言っておきます。何年も前、私はメルセデスベンツで働いていて、たかさんの、大金持ちに会う機会がありました。彼らは幸せだだと思いますよね？ 彼らは私がこれまでに会った中で、最も惨めな人たちでした。なぜなら、彼らの持ちものが多ければ多いほど、彼らは持ち物によって所有されていたからです。彼らは持っているものが多いほど、持ちものを失うことをも

っと心配していました。彼らは夜も寝られません。そして、これはまた、聖書中に何度も書かれています。

人が持っている富は、その人のいのちの身代金です。（箴言 13:8 参照）

それは彼らの命そのものを奪う。無一文の人の方が、持っている人よりも遙かに良く眠れます。持っている人は、「ああ、どうしよう。」「特にこの経済状況下では？」「家賃を払わない賃借人がいる。」私はそんなの気にしなくて済むんだ！「投資してるんだけど、株価が下がっている...」「私はどうすればいいんだ？」私はそんなこと心配しなくて済む。私はただ...持てば持つほど、持っている物のことが心配になる...だから、それが問題なんです。では、良い午後を。祈りで締めくくります。「答えは何ですか？」聞いてくれて嬉しいです。「どうやって」という質問は、このように答えられます。惜しみなく施し、喜んで分かち合い、天に宝を、自分のために積み上げる。虫がつくのを心配する必要はありません。錆びることもありません。泥棒、政府が侵入して盗むこと。そんなの気にしなくて済むんです。それは天で守られているから。ちなみに、ネタバレですけど、これは持参することはできません。ある人が言ったように、霊柩車の後ろに引越し用トレーラーがついているのは見たことはありません。そうはなりません。持参はできませんが、先に送っておくことはできます。最も自由な人々、最も富んでいる人々は、投資先を天に移した人たちです。こんな風に言わせてください。これこそが、豊かさから来るプライド、高慢さに対する治療法です。そして、また、富を信頼して、富について心配する人のための治療法でもあります。マタイによる福音書第6章です。聖書の中で私が一番好きな箇所の一つです。私はすべての箇所についてそう言っていますが、19節から34節は特に好きです。神は長年にわたり、私の人生の中で、これを力強く用いてくださいました。私は、私の経験する心配や不安、怖れとの闘いについてとても率直に話してきました。私は、言っておきますが、とても心配性です。悩みの博士号を持っています。いや、私はそれがすごく得意だから、もし心配の種が尽きたら、あなたのために何か心配することがないか、尋ねますよ。それほど心配の達人なんです。主は、長年かけて、私をそこから救い出し、癒してくださいました。マタイの福音書6章と一緒に見てもいいですか。これは「山上の垂訓」という愛称で呼ばれてます。私はそれを「金額の説教」と呼ぶのが好きです。なぜなら、それがイエスがここで話していることだからです。私がここを読んで、それについて話しますから、この説教でイエスが言っていることと、パウロがテモテに書いたこととの間にある類似点に気づいてほしいのです。19節です。

マタイの福音書6章

19 自分のために、地上に宝を蓄えるのはやめなさい。そこでは虫やさびで傷物になり、盗人が壁に穴を開けて盗みます。

20 自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。

そして、イエスはこう言います。

21 あなたの宝のあるところ、そこにあなたの心もあるのです。

その逆は言われません。イエスは「あなたの心のあるところ、そこにあなたの宝もあるのです」とは仰いません。あなたの宝があるところ、そこにあなたの心もあることになるのです。では、例です。あなたの宝はここにある。あなたの心はどこ？ここにいます。あなたの宝は、投資にあります。あなたの心はどこ？投資の中です。イエスはそう仰ってるんです。ところで、それは上手く行ってますか？特にこの不確実な経済の中で？ちなみに第一礼拝は、「預言アップデート」で、来たるべき世界統一経済の話をしました。キャッシュレス世界になります。何年も前から話してきたことです。聖書預言を学んで来た人たち、私たちは何年も前からそれを知っていました。それが今、こうやって実現すると思ったことがありましたか？どうやってキャッシュレスの世界統一経済を導入するのでしょうか？と言うのも、彼らは、単純に「はい、じゃあ今から世界統一経済に移行します！」とは言えないから。彼らは、世界経済を破壊しようとしています。こんな風に言わせてもらえれば、それは、「制御された

解体」です。現在の世界経済を破壊して、キャッシュレス・世界統一経済を導入するのです。ちなみに、そういうわけで、買い物に行く時は、現金なら、代金をきっかり持ってないといけないんです。お釣りはくれないから。それに今なら、硬貨？ マズイ、非常にマズイ！ うあー、硬貨を持ってる！ コロナウイルスが付いた通貨を持ち込むなんて！ あっちにやってくれ！ 私が頂戴します... (笑) アガペーボックスは、後の壁のところにあります。彼らは、現金を破壊しています。そうしないといけなんです！ つじつまが合いますか？ どうやって、キャッシュレスにするのか？ 現金を破壊する。それでは、またまた、良い午後をお過ごしください....あなたはそれに信頼を置くのですか？ 私なら、そうはしません。今後起こる事を考えると...もし、あなたの宝が天にあるなら、「かかってこい！」って感じですね。まず第一に、私はここでそれを経験する事にはなりません。7年の患難の前に携挙が起こりますから。「じゃあね、あなたみたいになりたくないわ」妻がいつも言ってるんです....そして、イエスは22節でこう言っています。

22 からだの明かりは目です。ですから、あなたの目が健やかなら全身が明るくなりますが、
23 目が悪ければ全身が暗くなります。ですから、もしあなたのうちにある光が闇なら、その闇はどれほどでしょうか。

24 だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることとなります。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。

ここで一旦停止します。イエスが「神と富の両方に、仕える”べき”ではない」とは言っていないことに気づきましたか。そうではなく、”できない”のです。それは不可能なのです。どちらか一方なのです。あなたが富に仕えているなら？ お金があなたの神なら？ ならば、真の生ける神は、あなたの神ではありません。「ですから、」25節....「ですから、」と書かれてある度に、それが何のためにそこにあるのか、分かりますね？ なぜ、そこに「ですから、」と書かれているのか、分かります。

25 わたしはあなたがたに言います。何を食べようか何を飲もうかと、自分のいのちのことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか。

「空の鳥を見なさい。」 [26 節]

さて、私たちと一緒に イスラエルに行ったことがある皆さんは...

これは...皆さんが、これにうんざりして来ているのは 知っていますが、これは、私の一番好きな聖書箇所の一つを教えるのに、一番好きな場所の一つなんです。美しいガリラヤ湖を望む丘の上、訪れる時期によっては、花が咲き乱れ、鳥が飛び交い、ただただ壮観です。その丘の中腹にいる救い主を、心に思い浮かべてください。ガリラヤ湖の水は穏やかで、静か。空には鳥のさえずり、そして、美しく咲く壮大な花の色。そして、ここでイエスは、「空の鳥を見なさい」と言っています。あなたは鳥を見て、「うわあ...！」(熱帯アジアの)ムクドリじゃなければ良いですが。ムクドリは好きじゃないです。[騒がしい鳴き声]昔っから好きじゃないんです。ごめんなさい。私のために祈ってください。なので、ムクドリではないです。いいですね？ 鳥を見ています。イエスは言いました。

26 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は 養っていてくださいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。

イエスの言われることが分かりますか？ 彼が言っているのは、「あの鳥たちを見なさい。あの鳥たちはパニくってますか？」鳥たちは、捕れる限りの虫を捕ろうとしていて、そして、将来のために、納屋にそれら詰め込んでいる。違います！ 彼らはただ、創造主を賛美しています。明日のミミズのことを心配してはいません。彼らは自分たちの創造主である父が、自分たちを養ってくださると知っています。そして、ここが重要です。それは、ただの鳥なんです？！ あなたは鳥よりも 価値があるのではないのですか？ 鳥は、神に似せて造られたものではありません！ あなたが、神に似せて造られたのです。もし神が、その鳥を養ってくださるなら、なおさら、神はどれほど あなたを養ってくださることでしょう！

それがイエスが言っていることです。 さらに良くなっていきます。

27 あなたがたのうち誰が、心配したからといって、少しでも自分のいのちを伸ばすことができるでしょうか。

私はある人がこう言ったのが気に入ってます。「心配は揺り椅子のようなものだ。」「それはあなたに何かすることを与えるが、何にもならない。」その通りですよ。あなたは何を成し遂げていますか？ ああ、あなたは何かを成し遂げていると思いますか？「私はこれを心配していて…」何になるのですか？ 申し上げますが、あなたが成し遂げているのは…消化器系をダメにし、心臓病の原因を引き起こし、血圧を上げている。いくつでもリストアップできます。それが、あなたが成し遂げていることです。

28 なぜ着るものことで心配するのですか。

「あー、大変。」「こんなの着れないよ。」「先週、それを着ていったから。」そうですね？ あるいは、クローゼットを開けて…「何にも着るものがないわ…」何だって？！ 靴が525足あるじゃないか？！ 一体どうしたのか？「うん…でも、私は秋（初老）なの。」「秋だから、もうこれは着れない…」知っておいて頂きたいのは、私はファッションに全く興味がありません。見たら分かるでしょうけど。このシャツは10月には着ない方がいいみたいですね。だって、これは春のシャツで、ピンクですから。なぜ服のことで、心配しているのですか？ 少し行き過ぎたたとえだったかも知れませんが…「なぜ着るものことで心配するのですか。」そして次に、鳥のかわりに、イエスは花を指し示します。またしても、咲きほこっていて、丘の斜面を彩っています。素晴らしい色でキャンパスに描かれた美しい絵のようです。そして、彼はそれらの花を指して、「これらの花を見なさい。」と言います。「見なさい、こんなに育って…」イエスはこう言います。

28 働きもせず、紡ぎもしません。

想像できますか？ こんなのを見たら、恐ろしくないですか？ もし花が、「ああ〜〜〜」となっているのを見たら。「何を着ようかしら…！」「また同じのは着れないわ！」「先週、黄色を着たから。いえ、ピンク！ ピンクは先週着たから。」

29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。

そして、鳥の場合と同じように、イエスは言います。

30 今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くしてくださらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。

イエスが弟子たちに、こういう言い方をしたとは、決して想像しないでください。彼は何度も「ああ、信仰の薄い者たちよ…」と言いましたが、決して、嫌悪感も軽蔑もありませんでした。「あなたがたは、なんて信仰が薄いのか？！」違います。もっとこんな感じでした。「なぜあなたの信仰はそんなに薄いのか…？ あなたの神はこれほどに大きいのに？」「なぜ疑ったのか？」「さあ、」「この花を見てみなさい。」「この花よりも、あなたの方が どれほど価値があるのか？」「それらをよく見なさい。写真を撮りなさい！ なぜなら、明日になってここに戻ってきたら、おそらく枯れているだろうから。消え去ってしまう。」「あなたは、あの鳥たちよりも どれほど価値があるか？あなたは、その鳥や花よりも、どれほど価値があるのか？」ですから、31節。

31 ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。

32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。

こういう事です。あなたが必要だと気付く前に、主はあなたに必要なものを知っておられます。彼はすでに知っています！ しかし、私たちの祈りはこうです。「主よ、私にはこれが必要で…」主がこう言うかのように…「おおっ！ 知らなかったよ！」「思い出させてくれてありがとう！ すっかり忘れていたよ！」「家賃の支払い期限だ！」「どうもありがとう！ 申し訳ない！ ほら、あなたが必要なのは分かってるよ。どうしたんだろう。忙しい一週間だったからね。」どれほど当惑することでしょう。違い

ます！あなたが必要だと気付く前に、神はあなたに必要なものをご存知です。神はあなたに必要なものを知っておられます。ところで、その手には乗りませんよ。欲望というラベルを 変えようとするのはやめましょう。あなたは「欲望」というラベルをはがして、捨て、そして、「必要」というラベルを貼り付けます。「主よ、これが必要なんです！」 — 「いや、必要ない。わたしはあなたに必要なものはすべて与える。あなたが願うものや欲しがるもの全てじゃない。」 「ああ、ところで、もし、わたしが知っていることを あなたが知っていたら、あなたは それをわたしに求めたりしてないだろう。そうですね？ 私の主との歩みの中で、最も私の助けとなったことは、この一つのシンプルな真理を知っていることです。神は必ず、私たちが私たち自身の祈りに応えるであろうと 全く同じように、私たちの祈りに答えてくださる ということ。神が知っておられる事を 私たちが知ってさえいれば。よく考えてみて下さい。あなたが祈っていて… 「神よ…」 私は、私を担当している天の御使いたちが こんなになってるのを思い浮かべます。「ダ、ダメだ…！そんなこと祈っちゃ！」 「それはやめといた方がいい！」 「すべての良い贈り物と完全な賜物は 天にいる父から来る。」 と、ヤコブは言っています。（ヤコブ 1:17 参照）もしそれが良いものであれば、あなたは与えられます。それが良いものでないなら… あなたに与えられないでしょう。そして、あなたは、与えられなかったことを喜ぶでしょう。なぜなら、神はあなたを守っておられるから。神は、あなたが知らないことを知っているから。ところで、神は図らずも全知なんです。あなたは違います。彼は、初めから終わりを知っています。神がそれをあなたに与えないのは、それがあなたのためにならないからです。神はあなたの必要を知っています。でも私たちは、指示を出すような祈りをします。私たちは祈りを捧げ、その祈りにどう答えるか、神に指示を出します。「主よ、私にはこれが必要です。明日の午後三時までに必要なんです。私は赤が好きなので、赤色のものが欲しくて…」 「おお、待って！待って！何色だったっけ？ ミカエル、書き留めてくれ。彼は赤と言っていた。」それは どれだけ馬鹿げているのでしょうか。そして最後に、33 節と 34 節。 私たちはこの箇所をよく知っています。

33 まず神の国と神の義を求めなさい。 そうすれば、これらのものはすべて、 それに加えて与えられます。

34 ですから、明日のことまで 心配しなくてよいのです。 明日のことは明日が心配します。…

そして、イエスはこう言います。 そう言ってなかったらいいのに。心配性の者としては。それから、心配性仲間の皆さんも。私はそこまでは良かったのです。「大丈夫、OK。分かりました。」「分かりました、明日のことは心配しません。」明日のことは、神がなんとかして下さる…ある人の言い方が気に入っています。「今日は、あなたが昨日心配していた明日だ。」明日は来ます。明日のための心配事は全部、そこであなたを待っています。明日の心配を 今日という日に 借りてこないでください。あなたは明日のことで、今日を台無しにするのです。そんなことしないで下さい！そうですね？ なので、私はこれについては大丈夫です。「ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。」しかし、次に彼はこう言っています。「苦労はその日その日に十分あります。」そうなんですか？ 待ってください！何て?! だって、そうになると、私が考えているのは…、「明日、何が起こるんだろう？」心配しないでください。「いいえ！だってあなたは、私には明日の心配事は山ほどあるって 言ったではないですか。」そして今、私は考えています。「明日はどんなことを心配するのか？」 — まだ明日ではない。まだ今日なんだよ。「分かっていますが…、だってあなたは、明日心配すべきことがあるって言うから…」神は明日、あなたを養ってくださいます。明日のことで、今日を台無しにしないで下さい。神はあなたに必要なものを知っています。ただ、神を信頼してください。神が養ってくださいると、信頼してください。パウロは、富に信頼を置かないように彼らに命じなさい、と言っています。主に信頼を置きなさいと。そうすれば、彼らは決して失望することはなく、決して期待を裏切られません。では、どうやって？それを、移すのです。あなたはそれにしがみついて、保持しようとしている。あなたは、それを失うことになります。あなたがそれを手放せば 保持することができます。それはパラドックス中のパラドックスです。これがその方法です。これは命令ですか？ — そうですね。

どうすればその命令を守れるのか？ その方法はこれです。自分のために、天に宝を蓄えなさい。そうやってです。そして、あなたの必要が満たされるのを 心配しないことです。それが主に信頼する方法です。主が養ってくださいます。お立ちください。祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。主よ、ユーモアに感謝します。それは体に良いものです。癒しのようなものです。あなたは私たちにユーモアを与えてくださいます。あなたにはユーモアがありますから。主よ、笑いに感謝します。主よ、あなたの御言葉に感謝します。あなたの御言葉のこの箇所に感謝します。主よ、私たちがこれをここに置き去りにせずに、今日、これを私たちの一日、一週間に 持ち込めますように。あなたのこの御言葉の中で、聞いたことを。そして、聖霊がそれを私たちの心の祝福としてくださり、私たちが生活の中でそれを適用し、それが現実のものとなるように。主よ、私は多くの方が苦悩していることを、知っています。それは当然のこと、理解できることです。私たちはこの終わりの時代に、危険で不確実な時期に生きています。主よ、あなたに感謝します。ある意味では、あなたは...私自身も含めて、ここにいる全員に、考え直すきっかけを下さいました。「私たちは何に希望を置いているのか？」「何に信頼を置いているのか？」

主よ、これには、私たちがあまりにもきつくこの世を 握りしめている手を緩めさせるという、本当に 求められていた効果があったことを知っています。なぜでしょうか？ 主よ、私たちがそれを手放すことを祈ります。 そうすれば保持することが出来ますから。まことのいのちを。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7